

改訂の序

救急医療において骨折は古くて新しいテーマである。また、近年は、高齢社会になり骨折の症例も増加している。そのようなニーズに後押しされ初版の「骨折の画像診断」は、救急部をローテーションする研修医のみならず、救急部の指導医、画像診断医、整形外科医にも広く受け入れていただいた。初版は2008年12月に発行され、すでに5年が経過したこともあり、改訂版に取りかかることにした。

骨折の分類を理解し、骨折を正しく評価することは治療法の選択と予後の予測に必須である。また、救急医、画像診断医、整形外科医が共通の分類に立脚した共通の用語を使い、情報を共有することも重要である。

初版の基本的なコンセプトは以下の通りであった。

- ・総論と各論で構成し、各論は基本的撮影法、正常解剖、骨折の分類、症例提示とする。
- ・骨折には多くの分類があり、専門外の医師には煩雑であるので、部位別に繁用されるものを1つ選んで紹介する。
- ・救急現場で要点をつかみやすいように骨折診断の重要なポイントを箇条書きで記す。

この基本コンセプトを維持しつつ、改訂版では以下の点を中心に加筆、修正を加えた。

- ・総論において広く救急現場で必要な外傷の初期治療を加筆し、また、骨折の治療で使用される固定材についての記載も加筆した。固定材については、各論で提示されるどの症例でどの固定材が使用されているか参照できるようにした。
- ・骨折の分類の見直しを行った。また、長管骨骨折の症例提示ではAO分類を付記した。
- ・症例の画像所見は画像診断報告書の体裁をとり、自己学習を容易にした。
- ・本書に機動性をもたせるため、骨折の分類のみを抜粋したPDFデータ版をダウンロードし、タブレットやパソコンで閲覧できるようにした。

改訂にあたり、初版を担当した先生方に加えて救急部医師にも執筆に参画していただいた。より一層、繁用性と利便性が向上した骨折の画像診断入門書になったと考える。救急医療の現場で役立つことを期待している。

2014年3月22日 春暖の青松寺を臨んで

福田国彦
丸毛啓史
小川武希